山のある風景

由布・鶴見火山群は、国際温泉都市別府と由布院温泉の間にある山々で、由布岳は標高一五八四メートル。綾線の美しい草山で〝豊後富士〟とも呼ばれ、ハイキングをかねた登山者に人気があり、山頂からの展望がすばらしい。

由布岳

画　姉川良男

文化

好評だった『私の一品展』

〝来年もぜひ〟との希望も

さまざまな力作が並んだ会場の一部

文化行事の一環として『私の一品展』が四日から七日まで、組合事務所会議室で催され、組合員や主婦会、児童の作品、さらに退職者の出品など二十二人、四十八の力作が寄せられました。

『私の一品展』を観賞した人びとは、「大したものだ」と口々に感心していましたが、「こんな催しを毎年開いてほしい。もっと写真を。そして多くの人が出品を」という要望も出されていました。

この催しを成功させるために、カメラ愛好会などの実行委員がいろいろ努力されましたが、どうもご苦労さまでした。

作品と出品者

〔絵画〕

人形（油彩六号）、ひまわり（油彩八号）＝宮脇好光。ナマハゲ（色紙水彩）＝椛島亮治（幼稚園）。根子岳・阿蘇（色紙水彩）、四山鉱・港（墨淡彩『みいけ』連載原画）＝姉川良男（退職者）。

〔写真〕

柳川旅情・渓谷の朝（カラー）＝米本隆義（退職者）。祭っ子（カラー）＝椛島敬三。卑弥呼・石楠の花（カラー）＝黒田勝儀。ヌード・三池港（カラー）＝新本通敬。春風・冬の根子岳（カラー）＝田中教幸。錦江湾の朝・宿毛湾と四国山地（カラー）＝平川道治。内大臣橋（カラー）＝朽網勝喜。海水浴（カラー）＝猿渡章博。

〔版画〕

大造じいさんとガン）半紙・墨）＝椛島洋介（小五）。年賀（葉書水彩）＝森皐。

〔手芸〕

人形（ねんど）＝藤田美代子。人形（ねんど）＝平川弘子。花（ししゅう）、人形（布）＝津波古八重子。こづち・亀（硬貨細工）＝藤井サユミ。造花（紙）＝村上玲子（いずれも主婦会）

〔盆栽〕

松・その他＝芳川勝。

〔文芸〕

臥竜梅（短歌）＝中尾種夫（退職者）。どんなときでも（詩）・弁当箱のはしが二本（詩）・こぶし（詩）・妻夜なべ（俳句）＝高椋龍生。海浜にて（詩）＝杉本一男。

（いずれも順位不同・敬称略）

× ×

このページの下段に文芸作品を紹介しました。絵画や写真を掲載できないのが残念ですが、白黒でぜひお寄せ下さい。

この種の文化展は、かなり以前の『職場新聞まつり』以来のことだった。今後の取り組みが注目される。

文芸作品

『私の一品展から』

短歌

臥竜梅　中尾種夫

除夜の鐘静かに聞きつ灯の招く宴の席に弾む足どり
永らへてまた臥竜梅の下に佇つ海よりの風冷たき朝
被葬者の夢は知らねとひと気なき古墳に憩う哀し吾が性
孫文の愛でし牡丹の咲くを待つ奢りの春の淡き憧がれ
幼な児と泳ぎしことも遥かにて干潟染めたる夕陽を拝む

詩

どんなときでも　高椋龍生

どんなときでも
手をとりあってすすもう
力が湧いてくるから
どんなときでも
ことばをかけあってすすもう
暖いものが流れあうから
どんなときでも
胸を張ってすすもう
光が呼んでいるから
どんなときでも
ひるまずすすもう
そこに未来があるから

詩

弁当箱のはしが二本　高椋龍生

弁当箱のはしが二本
ひたひたと
よりそうようにくっついている
かたほうのはしが　妻で
かたほうのはしが　私
二本のはしのさしている方向が
いつも　二人で語り合うしあわせがいっぱいある
未来かもしれない

詩

こぶし　高椋龍生

ぐっと
握りしめる力のこぶし
なかまと　なかまの
こころと　こころの
かよいあう
このこぶしで
そいつを思いきり　ぶっ倒し
幸せを握りしめる日のための
鋼の　こぶし

俳句

夜なべ　高椋龍生

夜ぎくらへ行くものはゆき
妻夜なべ
スト以来　妻につきたる
夜なべ癖
坑内暑し　口より涎汗　流し

中国切手の行方

前号で紹介しましたように、鷹田勘一さんから原告団にカンパされた切手帳二つは『私の一品展』に展示し、希望者で抽せんした結果、椛島さんと緒方さんに当たりました。

姿見

今年の二月でしたでしょうか、四国・愛媛県の伊方原子力発電所で日本では初めての出力低下調整実験が行われました。この前後、多くの母親達はなかには子供を伴い、労働者とともに危険な実験の中止を求めて、署名や行動を起こしました。私も、原発反対の立場から署名はしたものの、その危険性についての実感はまだまだ弱かったと、いま思っています。

福岡在住の主婦・甘蔗さんが『まだ、まにあうのなら』と反原発、平和を求め、行動を切望する長い長い手紙を書き著していますが、すべての人々へ柔らかな筆致のなかにも、一歩も引かない姿で立ち上がることを訴えています。

原発なんかいらない

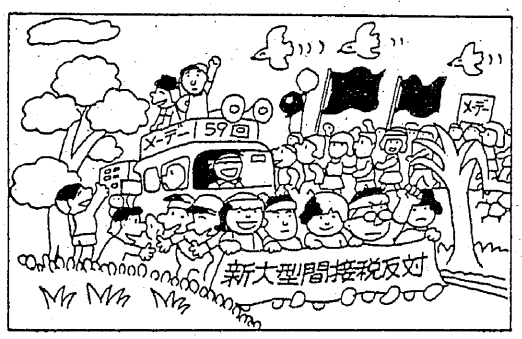
大牟田ブロック　平川弘子

「母親たちよ、私たちは何の力もないけれど、傍らで自分の未来に何の不安も抱かずに無邪気に笑っている子供の姿を見た時諦めるに諦めきれません。たとえ、他の誰もが黙っていても私たち母親だけは手を繋ぎ、はっきりと『原発なんかいらない！』と云いましょう」……と。

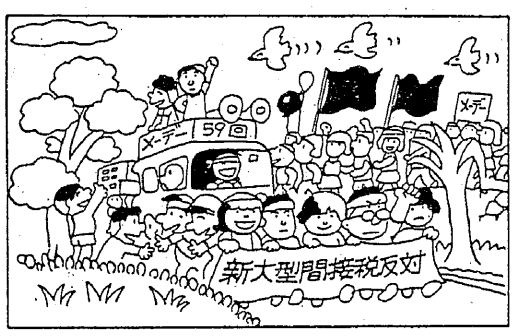
大牟田でも四月初めに、反原発のつどいが開かれました。九大工学部の平井孝治先生から、チェルノブイリ事故の生なましい映像を見ながら原発の恐ろしさを説明いただきました。

日本で稼働している三十六基の原発の現状と仕組み。炉の一つひとつに、一年で広島型原爆の千発分の死の灰がたまること。その中には肺ガンを引きおこす猛毒のプルトニウム（半減期二万四千年）が多く含まれていること。ピーク時でも電力は余っている。また、電力のつくり溜はできないので出力調整のため、チェルノブイリの二の舞にもなりかねない危険な出力調整実験を行っていることなどをお聞きし、背筋が凍る思いでした。

石炭つぶしの火力発電や水力発電をやめてまで、メリットが無い原発を稼働させている政府に迫り、子孫に良い環境を残すために、くらしや平和を求めることを大きな声に出して行動し、平和運動を進めてまいります。



クつのまちがい



＜問題＞下の絵は上と7カ所のまちがいがあります。どこでしょう。（印刷のよごれはまちがいにははいりません）答えは3面に。

出題・西山　進